

ある人の歴史

町史係 山里 奈美

今回は、九月十一日に町史編集係へ寄贈された資料を紹介します。

資料は、明治二十三年生まれで字兼久出身の新垣盛吉さんが兵役についていた「履歴表」（明治四十二〜大正十年）と、村会議員当選の「告知書」（大正十三年七月一日）の二点です。

「履歴表」は、盛吉さんが機関兵として佐世保海兵団に入団した明治四十二年から大正四年までの現役兵期間と、予定予備役満期の大正十年の履歴が記されています。

入団当時、盛吉さんの氏



村会議員当選の告知書

名とは別に族籍「沖縄眞平民」とあります。当時まで平民と士族が区別されていたようです。さらに、背丈がいくらあるとか、肉・顔・色・眉・眼・鼻・口・耳・歯・髪・言語といったチェック項目があり、その評価は「整」とか「並」などと書き込まれています。顔の評価っていったい…？

盛吉さんは五等機関兵からスタートし、大正二年に一等機関兵へとあがってきます。現役兵期間中には軍艦「敷島」や「津軽」「須磨」「桂」に乗船し、主に中国大陸方面の警備を任務としてきたようです。

その間には「(天皇・皇后) 兩陛下ヨリ酒肴料下賜セラル」とか、「獨逸國(ドイツ)ニ対シ戦ヲ宣セラル」という記述もあり、当時の時代背景がうかがえます。

もう一つの資料は、盛吉さんが兵役を引退した後、西原村会議員に当選した際の「告知書」で、西原村役場の罫紙に刷られており、告知者名は当時の西原村長・新川文吉となっています。現在は選挙管理委員から告知されるのですが、当時は村長の役割となっていたようです。

盛吉さんが村議をつとめていたことは、町史編集係でも新しい事実の発見となりました。今回資料を提供いただいた盛吉さんの孫・盛雄さんには大変感謝申し上げます。

このように、一人の人間の歴史から、当時の西原や日本、はたまた世界の歴史がみえてくるのですから、たかが紙切れ一枚なんて思っちゃいけません。みなさんの押入にもこんな資料が眠っていませんか？